

科目名	地震防災計画学	科目コード A3140
-----	---------	----------------

専攻名・学年	環境都市工学専攻 1 学年 (プログラム3 学年)	担当教官	塩野計司 (環境都市)		
単位数	2 単位・選択	開講期間	前期	時間数	30 時間
				内訳 <small>(時間)</small>	講義(28), 演習(0) 実験(0), その他(2)
教科書	自作教材 (授業期間中に配布します。)				
補助教材					
参考書					

A 科目の概要	
<p>地震災害を主要な対象として、災害の実態と 災害の防止・軽減を目的とした計画について学習し、地震防災対策の全体像を学習します。 に関しては、施設面の問題に加え、震災の人的・社会的な側面についても学習します。 に関しては、各種の防災計画を例として、その理念や構成のほか具体的な内容 (対策の詳細) について学習します。</p>	
B 到達目標	
<p>1) 地震災害の実態を技術者としての視点で理解する。 2) 地震災害対策における被害予測と防災計画の位置づけを理解する。</p>	
C 長岡高専の学習・教育目標との対応	(A)
D 履修上の注意	
<p>遅くとも講義の1週間まえに資料を配布します。受講者は、配付された資料で「予習」してください。受講者の予習を前提として授業を行うので、予習は必須です。 課題やレポートを出題する計画はありません。ただし、授業内容に対する受講者の理解が十分ではないと判断されるときは、課題を出題して状況の改善を図ることがあります。課題は、筆記試験を補足するものではなく、成績との関連はありません。</p>	
E 評価方法	
<p>1)地震災害の実態を技術者としての視点で理解したことを、筆記試験をおこなって確認し、評価する (50%)。 2)地震災害対策における被害予測と防災計画の位置づけを理解したことを、筆記試験をおこなって確認し、評価する (50%)。</p> <p>定期試験【100%】(前期中間(0),前期末(0),後期中間(0),後期末(100))、その他の試験【0%】、レポート【0%】、その他【0%】の割合で到達目標に対する理解の程度を評価する。60点以上を合格点とする。</p>	

F 授業計画・内容		
週	内 容	備 考
1	導入：視覚教材や簡単な被害統計を利用して，地震災害のイメージづくりを行います。	
2	災害記録（１）：災害の記録を紹介し，災害を数量的に捉えます。（物的な被害を中心に解説します。）	
3	災害記録（２）：災害の記録を紹介し，災害を数量的に捉えます。（人的・社会的な被害を中心に解説します。）	
4	災害調査（１）：災害記録の収集方法について学習します。（物理的な被害を中心に解説します。）	
5	災害調査（２）：災害記録の収集方法について学習します。（人的・社会的な被害を中心に解説します。）	
6	災害分析（１）：災害分析の枠組みを学習し，被害の特徴を理解します。（物的な被害を中心に解説します。）	
7	災害分析（２）：災害分析の枠組みを学習し，被害の特徴を理解します。（人的・社会的な被害を中心に解説します。）	
8	災害や防災に関する話題の解説（１）：視覚教材や被害統計を用いて，最新の話題を解説します。（適当な話題がないときは，論文の解説を行います。）	
9	防災計画（概論）：日本の防災計画の全体像（枠組み）を理解します。	
10	防災基本計画（１）：防災基本計画制定の歴史・背景・基本構成などについて解説します。	
11	防災基本計画（２）： 防災基本計画の内容（対策項目）を，地震災害を例として解説します。	
12	地域防災計画：計画の位置づけと一般的な構成について解説します。	
13	被害予測（地震被害想定）：地震被害想定調査の目的や一般的な構成について解説します。	
14	試験	
15	試験問題の解説と発展的な内容による授業	